

## 令和3年度第1回「知事と一緒に生き活きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：おかやま元気！集落～多様な主体が支え合う仕組みづくり～
- 2 日 時：令和3年8月2日（月） 14：10～15：20
- 3 場 所：道の駅くめなん（久米南町下二ケ1367-1）
- 4 参加者：おかやま元気！集落で地域活動に取り組む住民、支援組織、専門家など  
5名

### 5 知事挨拶

「おかやま元気！集落」で地域活動に関わる皆様から、地域の魅力や可能性、多様な主体が地域を支え合うために必要な取組、地域を元気にするアイデアなどについてお聞きしたい。

### 6 発言内容等

#### 【自己紹介】

- ・久米南町で地域おこし協力隊として活動しており、特に、農業を通じた関係人口の創出・拡大を目指している。例えば、キュウリやブドウ農家は繁忙期に人手を欲しているが、農作業体験をしたいと思っている大学生は参加方法を知らない場合が多い。そのような農家と大学生をマッチングする活動を行っている。
- ・久米南町山手地区の住民団体で事務局を務めている。ブドウの産地である山手地区は限界集落だったが、定住者を増やしたいという思いから住民団体を立ち上げ、交流イベントなど様々な活動を行っている。新しい人を迎えるには、まず、迎える側の地域の人同士のつながりが大切であると考え、お互いを知るところから活動を始めた。
- ・子育てが一段落したのを契機に、美作市梶並地区に移住し、キャンプ場でスタッフとして働きながら、梶並地区の住民団体の活動に携わっている。住民団体では、定住支援やお試し住宅の管理、特産品であるそばやこんにゃくの生産、加工販売などを行っている。
- ・岡山県中山間地域協働支援センター職員として、「おかやま元気！集落」をメインとする集落支援を行っている。地域によって取組は様々だが、多くは高齢者の方が中心となって活動しており、焦らず地域の方のスピード感に合わせてバックアップしたいと思っている。
- ・岡山大学地域総合研究センターに勤めている。学生や留学生には、自分の町を知った上でグローバルな人材に育ってほしいと考えている。10年間矢掛町の集落に関わってきたが、学生が支援するだけでなく、コロナ禍で学生が大変なときに集落の人がお米を提供してくれるなど、集落が学生を応援するという動きも生まれ、大きな変化を感じている。

#### 【活動を通じて見つけた地域の魅力や可能性、課題など】

- ・久米南町には元気な高齢者が多く、行事やイベントなどにも精力的に取り組んでいる地域が多い。しかし、集落単位の活動なので、他の地域と交わったり、外の人を巻き込んだりすることが難しい状況である。地域外の人に協力してほしいという思いはあっても、高齢で情報発信が苦手という方が多いので、自分をはじめ

若い人が大学生などをターゲットに祭りやイベントなどをPRして人をつなげていきたい。

- ・災害時など、いざという時に地域で助け合える体制を整備するため、地域に住んでいる誰がどんな資格を持っているのか、どんな機械を所有しているのかなどをまとめた山手の百科事典を作成した。外への情報発信に加えて、地域内の情報を集めて地域の力を高めることも重要である。
- ・地域には様々な可能性が眠っているが、うまく発信できていない。例えば、意外と仕事はあるのにアピールできていない。若者が来やすいと感じるポイントを発信できればもっと移住者が増える。また、地域間のつながりを増やせば可能性も広がる。若い人が入って活動することが、地域の人への刺激にもなる。若い人を入れて盛り上げるのも活性化だが、地域の人が生き生きすることも活性化である。
- ・センターのミッションは「おかやま元気！集落」のサポートとファン作りというところにある。例えば、県立高校が「おかやま元気！集落」で1日ボランティア活動を行ったり、企業の方や大学生を、イベントなどで人手が足りない集落に派遣する取組などを行ったりしている。こうした取組を通して一歩踏み込んだ交流が生まれ、イベント終了後も継続して地域と関わる人も出てきている。一方で、働いていて平日動けない30～40代の方へのアプローチは難しいと感じている。
- ・若い人は動きたいという気持ちがあっても、メールや張り紙だけでなく、直接声を掛けてあげないと動かない。魅力のある元気な集落には面白い人がたくさんおり、学生たちもそういう人がいる場所に行きたがる。町づくりをしている人は走ることで精いっぱいなので、第三者が客観的に活動を評価して、課題や良いところを見つけるのが良い。県や大学、NPOなどが集落活動をPRすることが必要である。

### 【地域に必要な取組、元気にするアイデアなど】

- ・例えば、地域の空き店舗を利用して野菜の直売所を作ろうとしても、一つの地域だけの小さな取組になってしまいがち。同じような取組をしたいと思っている人はあちこちにおり、同時に動けば大きな取組になるが、取りまとめをする人がいないので実現しない状況である。当事者同士が直接やり取りをすると、それぞれの思惑があるので上手くいかないこともある。行政やNPOのような、両方の意見が分かる中立の立場の人が間に入ってコーディネートしてくれるとありがたい。
- ・山手地区の特徴として、働く土地はあるが住む家がないという点がある。新しく来られた方が家を建てたいとなっても、土地はあるがお金がない。家を建てるときに行政からの支援があれば嬉しい。
- ・梶並地区の魅力を伝えられれば、自分と同じように移住する人が増えるだろう。働いているキャンプ場は余計なものをそぎ落とした場所で、電波状態もあまりよくないにも関わらず、お客様はとても笑顔で生き生きとして帰って行く。コロナで価値観が変わっているのかもしれない。
- ・県外に住む遠くの人ではなく、いかに岡山市や倉敷市に住む方に中山間地域のことを考えてもらえるかがポイントである。人口減少が進む中で、どうやって今後の暮らしを成り立たせていくのか、都市部の人にも考えてもらいたいし、まずは現状を知ってもらいたい。そのためには、それに関わる行政の考え方をメディアなどで発信しても良いのではないかと思う。一つの自治体だけでは考えきれない部分を県全体としてサポートしていくことが大事である。

- ・中山間地域は課題だらけと言われるが、これからは、「面白い場所で、やりがいがあって、誰もが活躍できる場」と位置付けるべき。外から人がやって来る地域というのは、実は内部の流動性も高い場合が多い。地域の人が動いているからこそ、そこにチャンスが生まれて、外からも人がやって来る。コロナの中でも元気な地域は、今までの人とのつながりを活かしており、困ったときに外の人に助けを呼べる仕組みができている。どうやって人の動きを硬直させないか、岡山全体の流動性を考えていくと良いと思う。

## 7 知事まとめ

- ・若者が集落に関わることで、地域の人と若者双方が刺激を受け、お互いに元気を与え合える。また、近くの都市部の人が気軽に中山間地域を訪れるようなマッチングを進めることは双方にとってプラスになる。
- ・県としても様々な取組を進めていきたい。